知恵の樹

No.116 2006. 12. 21

町田の図書館活動をすすめる会

事務局:町田市森野 3-1-12
FAX 042-722-1243 増山

チェルノブイリの子どもたちの保養に参加して

～2006年8月8日～26日　ベラルーシ、ウクライナ～

チェルノブイリ子ども基金　小寺隆幸・小寺美和

今年の夏、子ども基金のボランティアとして、ベラルーシとウクライナのサナトリウムを訪問しました。まず訪ねたベラルーシのナジェジダは昨年春にも訪問した大きなサナトリウムで、ベラルーシ政府、ドイツのNGO、そして子ども基金が支援しています。甲状腺ガンの手術を受けた若者達50名と汚染地に住む小さな子どもたち200名とともに一週間過ごしました。子どもたちはここで3週間生活します。検診を受け、必要な治療を受けながら汚染されていない食事や楽しい生活を通して元気を得て生きます。私たちはここで子どもたちが素晴らしい環境のなかで学び、様々なクラブ活動や自分たちの表現活動に取り組んでいる様子を見ることができました。

ウクライナのサナトリウム「ユージャンカ南」／甲状腺の手術を受けた若者達の書道教室　2006.8.19 小寺撮影

子どもたちと竹トンボつくりに興じたこと、手術後の若者達と夜の湖畔で語りあったり踊ったりしたことも素敵な思い出になりました。

次に訪れたウクライナのユージャンカは黒海沿岸にあり、子ども基金が建設した小さな保養所です。そこでは約50名の20歳前後の若者たちとゆったりした時間が流れる一週間を過ごしました。彼等は朝食後、すぐそばの黒海で泳いだり陽射しを浴びたりします。砂浜でのスイカ割りは好評で、見事あたると大きな歓声がわき、皆でスイカを頬張る楽しいひとときでした。午後は一緒に訪れた佐々木さんと共に折り紙、日本語、習字、料理の教室を開きました。習字では「私はあなたを愛している」を真剣に書いて大事に持ち帰る姿が微笑ましかったです。そして圧倒されたのは夜の集い。ウイットにあふれた寸劇や歌など、いつ練習したのだろうと不思議なほど洗練されたものでした。どこに行っても、どんなときも、若者たちの持つエネルギーは変らず輝いているものだと、こちらも熱くなりました。

しかし、甲状腺の手術を受けてから毎日薬を飲み、将来への不安を抱えている姿を垣間見ることもありました。前を見て進もうとがんばっている彼らですが、仲間に会える保養所の開放的な打ちとけた雰囲気は、本当に貴重な空間と時間なのでしょう。そんな若者達が、私たちの出発する直前の真夜中に全

ベラルーシのサナトリウム「ナジェジダ　希望21」で
ゴメリなど汚染地の子どもたちの三週間の保養をしめくくる
最後の夜の集い　　〈 2006.8.12　小寺撮影 〉

員玄関に集まり、「ありがとう」と私たちと抱き合いながら別れを惜しんでくれました。ユージャンカを訪れて若者達と過ごした一週間は、いろいろいろ考えさせられる毎日でした。そして、こんなにも信頼してくれる若者や子どもたちがいることは、共にこの世界を生きるという大きな喜びになりました。

それから4ヶ月近くたちました。先月、ウクライナの団体から私たちが支援している子どもが甲状腺ガンが転移して亡くなったという知らせがありました。15歳の女の子です。同じウクライナの団体が今年1月に知らせてきたのは甲状腺ガンが肺に転移して入退院を繰り返した結果亡くなった21歳の青年のことでした。ベラルーシのゴメリでは3月に13歳の女の子が亡くなりました。日本からの支援が開始される直前でした。8月に同じゴメリの団体からやはり日本が支援している14歳の男の子が亡くなったという知らせがありました。支援している子どもだけでなく、お母さんの死、あるいは団体の関係者など被害は静かに進行しています。チェルノブイリ事故後に生まれた子どもも、今、大人になった若者も、周りの大人も。

（2006年12月記　こでらたかゆき・こでらみわ 会員）

どうぞ、お力をお貸しください！

町田市民文学館開館記念式典報告
～ 町田市民文学館の「市民」って? ～ に応えて

町田市民文学館館長　守谷　信二

本紙前号（「知恵の樹」No.115）で、町田市民文学館のあり方についてご批判をいただきました。要旨は、「市民の文学館」を標榜しながら、開館式典や施設のあり方に「市民」を意識した形跡が見られない。「地域の名士」からは一定の評価が得られても、今後どれだけ「市民」の参画を期待しているのか心もとない、というものです。

様々な事情で開館の準備が万全でなかったのは事実ですが、ご指摘の主旨は文学館の基本姿勢に関わることですから、準備と運営の直接責任者として疑問にお答えしたいと思います。

まず、式典について。

招待者の中に「これまで文庫やおはなし会など地道に市民活動をしてきた人たちの姿はなかった」という点です。ご指摘のとおり、文庫やおはなし会ばかりでなく、基本計画・設計段階でシンポジウムやワークショップに参加してくださった文学グループの方々、展示や図録の作成などにお力をお貸しくださった方々も、個々にはほとんどはお招きすることができませんでした。

開館式典と同時に落成式であり、また23人の文学者を対象とする特別企画展の初日でもありますから、資料をご提供くださったご遺族や関係者をはじめ、議会・行政関係者、工事関係者、関係団体・機関の代表者など、どうしてもご招待しなければならない方々で、式場の収容席数（138席）はたちまち一杯になってしまいました。

「式典」も月並みなものではなく文学館らしいものにできないか、もっと気楽な「開館を祝

う会」のようなものを別に開催できないか、といろいろ思案しましたが、ともかく開館に漕ぎ付けるのが精一杯で、職員にそこまでの余力がありませんでした。

職員にはできなくても、市民の中から自然にそういう動きが生まれて来る、というのが理想的なのでしょうが、そのためにはそれを可能にする職員と市民の関係が、準備の過程で作られていなければなりません。「文学館開設準備ニュース」NO.6 で式典のアイデアを募集するのが精々で、市民への働き掛けが不十分であったと言われれば、弁解の余地はありません。これから職員も努力しますので、どうか皆さんにもお力をお貸しいただきたいのです。

第２部のギャラリー・リーディングは、出演者と事前に十分に打ち合わせた上での段取りでしたが、やはり会場が落ち着いてから始めるべきだったと思います。

次に施設です。１Ｆフロアのレンガ床ですが、これについてはご批判とは異なる見解を持っています。「とても子どもが座り込んでゆっくり絵本を読めそうもない」とのご意見ですが、そもそも子どもが座り込んで本を読むことを想定したスペースではありません。そら豆型の書架は、地域の児童文学や絵本作家の作品を象徴的に展示することで、大人の文学に限定されがちな文学館のイメージを払拭したい、というのが主なねらいです。ただし、その場で読みたい子どももいるはずですから、そのために階段横に木製ベンチを設けました。

「子どもが転べば、柔らかい肌に治りの悪いすり傷を負いそう」なざらざらのレンガ床ですが、文学館の建築素材の選択には設計者の強い意図が籠められていて、設計段階での何回かのワークショップでも度々説明されました。それは、長く市民が利用する施設だからこそ、古くなればなるほど味わいの出る本物を使いたい。見た目がスマートで抵抗感のない素材より、人間に強く働きかけてくるような素材の質感を大切にしたい、というものでした。無垢材の家具にしてもレンガの外壁にしても、人間と建築素材のあり方を深く洞察した提案として、それは私たちにも大変納得のいくものでした。子どもが怪我をしないとは断言できませんが、逆に高齢者の中には、レンガの床が滑らなくてとても良いという方もおられるのです。

いずれにしても、ともすると敷居の高い、取り澄ましたものになりがちな文学館の入口を、できるだけ入りやすく、それでいて気品のあるものにしよう、というのが設計者と私たちの共通の考え方でした。

子どもたちに関して言えば、むしろ図書館とは別に文学館がどういう働き掛けをしようとしているのか、ということのほうが遥かに重要です。小中学校の先生方と相談しながら、文学や言葉に関わる授業とは異質の刺激的な取り組みができないか、保育室を使って特に乳幼児と保護者へ向けて有効な活動はできないか、そんなことを考えながら、いまいくつかの模索を開始しています。こうした点についても、ぜひご意見をお聞きしたいのです。

「市民団体や大学・高校のサークルなどが手作りの冊子や同人誌を気軽に置けるコーナー」ですが、入口を入って左側の壁面「市民文学コーナー」はまさにそのために設置したつもりです。開館前に広報などで寄贈を呼びかける予定でしたが、すでに寄贈されているものを整理して、開館に間に合わせるのが先決ということになりました。「出版社に認められた市内在住の作家の書籍」ばかりというご指摘ですが、開館時は特に文学に関心がない方にも来ていただけるチャンスですから、「この作家も町田在住だったのか！」という発見に重点を置くことにしました。文学に関わる手作り冊子などは、これからぜひ寄贈を呼び掛けたいと考えています。

団体専用ロッカーは、基本計画の段階では一定数を予定していたのですが、予算とスペースの問題で断念せざるを得ませんでした。

今回のご批判を、私は大変うれしく受け止めています。そして、できることならこれをきっかけに、文学館のこれからについて実りのある話し合いの場が持てなかと考えています。

いずれは定期的な「利用者懇談会」のようなものを設けたり、もっと発展して文学館を支えてくださる方々の会ができればと思っていますが、まずは文学館の職員と関心のある市民が、気楽に話をすることから始めるのはどうでしょう。それも文学館が主催して広報で呼び掛けるというような従来のやり方ではなく、市民の皆さんが中心になって企画してくださる、というようなことになれば大変ありがたいのです。

建物としての文学館は出来上がりました。これから本当の「市民の文学館」にするために、どうぞ皆さんのお力をお貸しください。

（もりや　しんじ　会員）

「ねえ、テレビを消して　この本読んで！」

小学１年生の甥のことで、感動したことがあったのでお伝えしたくなりました。彼は、私が図書館の児童サービス担当になった次の年に生まれました。子どものこと（特に発達）がよくわからなかったので、成長とともに、どのような絵本を楽しむようになるのか、彼に協力してもらって勉強しました。あかちゃんのための絵本から、『エルマーのぼうけん』まで、ずっと読み聞かせをしてきたのです。

そんな彼が、久しぶりに私の家に遊びに来ました。たくさん遊んで帰る時間になりました。「あと１０分でママが迎えに来る」といったら、甥があわてて「テレビを消して」と言うのです。そして絵本箱をあさり、「この本読んで」と絵本を持って来ました。

「テレビを消して、子どもに本を読んであげましょう」という話はよく聞きますが、子どもから「テレビを消して」と言われるとは思いませんでした。甥は、読んでもらうのは大好きですが、自分で読むのは苦手です。彼が音読するのを聞いて、それがなぜだかわかりました。自分で読むと文字を追うことに精一杯で、言葉の意味が理解できないからです。

また一昨日、甥が『エルマーとりゅう』を持って、突然私の家に泊りに来ました。

「(おかあさんは) エルマーは長いから読んでくれない」と言います。彼には小さな妹たちがいて、妹たちと一緒に楽しむとなると、絵が少なく、長いお話では集中力が続かないからかもしれません。『エルマーのぼうけん』は、彼のお気に入りで、私が何度も読んであげました。彼は、続きのお話が知りたくて、親にねだり、『エルマーとりゅう』を買ってもらったそうです。彼の持ってきた『エルマーとりゅう』を見ると、文節ごとに、鉛筆で印がついている箇所がありました。母親が彼に自分で読ませようとした跡のようでした。

それから私は、食事やお風呂の時間をはさんで、彼が寝るまで、４時間も読み聞かせをしました。

子どもに本を届けるためには、本の楽しさを伝える、本を読んであげる大人の役割が重要だと、改めて考えました。

明後日、『エルマーと１６ぴきのりゅう』を持って、甥が泊りにくることになっています。

エルマーの３冊を読み終わったら、クリスマスに、もっとおもしろいお話をプレゼントしたいと思っています。エルマーよりおもしろいお話って、なんでしょう？？？　すごく難しいけど、考えるだけで楽しくなります。　(2006. 12. 12)

～福島の　鈴木史穂さんから～

患者図書館は今や必需施設

病院の図書室に勤めて

武井　澄子

私は現在病院図書室で働いている。病院図書室とは医師、看護師、その他医療従事者などに医療情報を提供する図書室である。

最終的には患者さんへの診療に貢献する事が目的である。

近年、臨床研修制度や病院の通信簿「病院機能評価」受審など、図書室の重要性は増している。

こうした反面、「患者の為の図書室―医療情報を中心とした患者図書室」も全国的に増えてきている。私のいる病院図書室にも、「図書室」の案内板を見て、時折入院患者さん達が来室する。

「何かないがな～」と足を骨折して車イスで来る患者さん、血相を変えて飛び込んで来たかと思うと「ウチの○○が、こうでああで～」と症状を私に話し、要は参考になる本を見たいと哀願状態の家族、患者自身が医療関係者なのか、さっさと医学大事典を調べるガウン姿の人・・・。

職員以外の利用禁止と銘打っていないので入室は可能だが、いかんせん図書室には、医学・看護専門書ばかりで、一般書・娯楽書・わかりやすい医学書は全く無い。肩を落としガッカリ退室する患者さんに、心底お詫びの気持ちで一杯になる。

全国的に、我々現場で働く者から「患者図書サービス」の声があがったのも不思議ではない。短い診察時間内での口頭による説明。それらが、自分にとって適切なもので合意できるものかどうか、患者自身も知識を必要とする。

そのため、疾患と治療法について納得できる様、学べる場の提供と整備・環境が、今や必要不可欠なのである。

それは医療者・患者双方に、治療上の良い効果をあげる事に繋がっていくものと信じている。

もちろん癒しの為の娯楽、小説、コミック、エッセイ、写真集、画集等も必要であるが、今や健康、医学、看護、食事療法、闘病記、患者団体資料などの医療情報の提供が要求されてきている。

インターネットが普及してきたとはいえ、玉石混合の資料の信憑性は薄く、Web を利用できない人もいるというのも現実。

今元気でも、いつ患者の立場にたつかもしれない・・・、身内に病人がでるかもしれない・・・、そういう時、身近に患者図書室があればどんなにかほっとし、心強いことでしょう。

現場で、患者さんたちの気持ちを感じるものとして、市民病院に出来つつある患者図書館の灯を消さないでほしい。実現を切望している。

（たけい　すみこ　会員）

緊急集会

病院患者図書館がほしい！

2007年1月20日（土）午後1時半～4時半
町田市民文学館　ことばらんど2階　大会議室
菊池　佑　氏（病院患者図書館協議会会長）
主催：町田の図書館活動をすすめる会

町田市民病院が全面的改築を行うのを機に、病院内に患者図書館を設置して欲しい旨を、前市長寺田市政第3期スタートの折に私たちは要望しました。市側は要望を受け入れ、第2期工事の際設計図に組み込み、市立図書館分館として位置づけてオープンすることを確約しました。

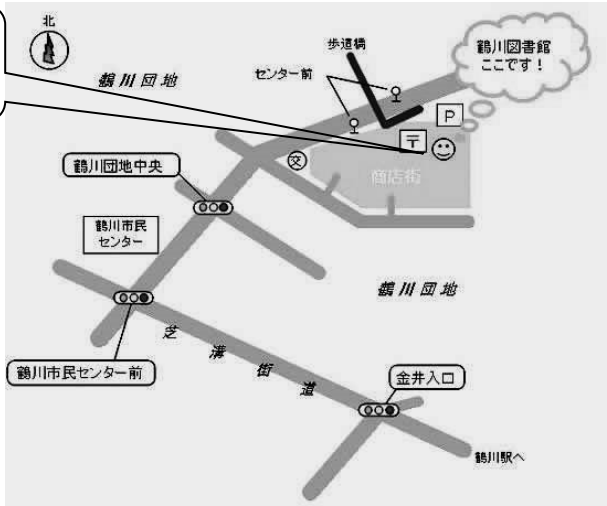
ところが、見晴らしの良いスペースに場所も確保され、実施計画にも子どもマスタープランにも入っているこの病院患者図書館に、一般財源からの予算措置はとらないという指示が市長から出され、設置が危うくなっています。

21世紀は、患者中心の医療サービスの質が問われ、今や患者図書館は、心の治療としてもなくてはならないものとして全国的広がりを見せています。

患者図書館について長年関わっておられる町田市在住の菊池氏を講師にお招きして、このことの大切さを再確認し、設置を実現させましょう！

鶴川図書館へようこそ！

河合健一郎



図書館エントランス写真

鶴川図書館は、鶴川団地商店街の一角に位置しており1972年2月に開館して以来、市民生活と周辺地域の活性化に繋がる図書館を目指し活動を続けてきました。

町田市の図書館では一番小さな図書館ですが、少しでも多くの方に利用してもらえるよう書架には文学・教養・政治経済の本や児童書・町田地域の関連図書等幅広く取り揃えてあります。

他にも新しく入った本・今話題の本・季節に合わせて読んで頂きたい本を紹介していくコーナーも設置しており、町田市の6つの図書館の中では 3 番目に利用が多い図書館です。

小さなお子様に本に触れてもらう機会を増やそうと、隔週水曜日午後 3 時からおはなし会も行っています。このおはなし会は、職員だけでなくボランティアの方にも協力して頂いており、絵本や紙芝居・ストーリーテリング等を、お子様とお母様が一緒になって楽しんでくださっています。

いよいよ本格的に寒い時季になってきましたが、図書館の中は素敵な本を求める方々の熱気で溢れかえっています。ぜひ鶴川図書館にご来館ください。

●小田急線鶴川駅よりバスにて鶴川駅発鶴川団地行・団地センター前下車すぐ〈☎ 042(735)5691〉

館内書架等写真

図書館写真

町田市立中央図書館5Fに

「情報コーナー」

市民の要望に応えて、今、知りたいこと、考えたいことの情報コーナーが特設されました。初回は、

＜憲法改正＞

「今、その是非を考えてみる」

ぜひお読み下さい！

町田の学校図書館を考える会

＊「子どもの本」連続講座　第４回

「科学遊び＆かんたん工作」

11 月 25 日(土)1:30～3:30　中央図書館 6 階ホール　講師:　小川眞理子(科学読み物研究会会員)

今回は学校図書館や文庫などで準備に手間もかからず簡単にできて楽しめる科学遊びや工作をご紹介いただき、またフィルムケースなどを使って作ってみました。出席は 15 名ほどと少人数で、かえってわからないところなどていねいに教えていただくことができ好評でした。親子連れの参加もあり、ちいさなお子さんも楽しみながら作っていました。

＊川崎北高校図書館見学

12 月 13（水）14:00～16:30

当会の会員だった T さんが司書をしている高校で、キハラの雑誌記事を見た会員からぜひ見学したいと話が持ち上がり 4 人で行ってきました。図書館は建物の最上階、3 教室をあわせたくらいの広さで東向きの窓からは遠くまで見渡せます。この景観を大切にしたいと、入り口を入ると少し広めにブラウジングスペースがとってあり、そこから放射状に書架が配置されています。改造前と改造後の写真をスクリーンで映しながら説明してくださいましたが、コンセプトは利用者の目線での図書館作り、これにつきます。整然と並べられていた机や書架を取り払い、あるところには死角を、またある所には溜まり場所をと、ちょっとした迷路のような楽しい作りです。見やすいサイン表示、廊下のさまざまな掲示、部活が活発だということからスポーツと健康関連をひとまとめにした本の配置など、さまざまな工夫があります。ガイダンスなどは教室で行い、図書館はもっぱら個人で調べたり思い思いに過ごすくつろぎの場所という位置づけがはっきりしています。小中学校でそのまま取り入れるには難しい点もありますが、利用者の目線という観点は常に念頭においておきたいと感じました。下記のサイトで部分的に見ることができます。ご覧になってください。

（有）図書館改造計画 HP

http://lib-impr-prj.hp.infoseek.co.jp/index.html

学校図書館といっても様々です。その学校の雰囲気や授業での使われ方などに応じ、もっともよいスタイルを探し作り上げる、そのためにはいろいろと見学し、どんな思いでしているのかを直接聞いてみることです。ハッとするような、目からウロコのアイディアにきっと出合えます。（水越）

町田市立図書館協議会より

＊おとなのための図書館活用法「大学図書館を使ってみよう！」

12 月 16 日（土）　14:00～16:00　和光大学梅根記念図書館　　参加　16 名

9 月より町田市立図書館と和光大学梅根記念図書館との間で協力貸出が始まりました。それを記念し、また地域に開かれた大学図書館である和光大学図書館を市民の皆さんにもっと知ってもらう機会にと、和光大学図書館と市立図書館との共催で講座が開かれました。学生向けに日頃からしているガイダンスを少しアレンジした形で、前半は少人数ｸﾞﾙｰﾌﾟに別れ B1 から 4F までの全フロアーをゆっくり見学、休憩をはさんで後半はパソコンを使っての情報検索講習でした。新聞の縮刷版や雑誌バックナンバーの合本などは地下にあり、自由に見ることができます。また情報検索では和光大学図書館蔵書検索「さとるくん」の使い方だけでなく、国立情報学研究所の GeNii http://webcatplus.nii.ac.jp/　の WebcatPlus　などは家庭のパソコンからもアクセスでき、本探しに大変便利です。図書館特製のバックに『本を読もう』(オススメ本の紹介) やかわいいイラスト入りしおりなどのお土産まで頂き、さらにこの日は特別登録料無料ということで、参加者はみなさっそく登録をしたようです。学生だけでなく社会人にとっても、またリタイア後の第二の人生にとっても、和光大学図書館は市立図書館と並んでとても力強い味方となることでしょう。(水

ひろば

＜例会報告＞
11/ 30(木)13：00～16：30
於・中央図書館中集会室
:報 115 号折込み作業～例会

出席	伊藤	片岡	久保	川野	手嶋
	中山	増山	前島	丸岡	桃澤

○ 会報について

・文学館「ことばらんど」オープン式典の報告記事から、文学館側からも発信してもらおう。

・市民の要望に応えて「憲法・教育基本法関係の資料コーナー」が中央図書館5F に特設された。かなり利用者が多く、貸し出されて書棚はさびしい感じ。コーナーの紹介を。(5P)

・巻頭言は、明治学院大学での世界平和アピール 7 人会議の報告を小寺さんに依頼済み(⇒チェルノブイリの報告に変更)。

○ 緊急集会「病院患者図書館がほしい！」(5p)

組合との共催事業は、急遽病院患者図書館問題が浮上してきたため講演会に変えて、病院患者図書館協議会会長菊池佑氏を講師に**緊急集会**を開く。菊池佑氏は、患者図書館の設置を要望する際も講師としてきていただいた方である。著書・共著に『患者と図書館』『病院患者図書館』等がある。**ぜひ多くの方が参加してくださいますよう！**

○ 講演会「2006 年度 どの本よもうかな」

広瀬恒子氏を講師に、その年度に出版された児童本の中から絵本や読み物の数々を紹介してくださる。毎年リピーターが楽しみにしている催事。

3 月 27 日(火)10 時～12 時中央図書館ホールで

○ 図書館協議会

病院図書館について教育長に要望書を提出したが、市長には面談できなかった。

今後も何らかの方法で、動いていく。

○ 「町田子どもマスタープラン」の中に盛りまれた「町田市子ども読書推進 5 ヵ年計画」取り組み状況を調べたい。

○ すすめる会臨時例会･･･1/12(金)16:00～ 中央図書館中集会室／20 日の病院患者図書館集会のため準備等、話し合い。その後、新年会。

○新年会 1 月 12 日(金)18:30～
西友隣ビル地下1F「新撰組」で。出欠は、1 月 10 日〆、伊藤倭子さんまで。

○ その他／親地連全国交流会が、2007 年 9 月 29 日(土)、30 日(日)に代々木オリンピックセンター(予定)で開催されることになった。子どもと読書、読書環境、公共図書館、学校図書館、ボランティアなどについて、今後のあり方を話し合う全国的な催しである。メインイベントに、松岡享子さん(東京子ども図書館理事長)と広瀬恒子さん(親地連代表)との対談が決まった。スタッフとして協力してくださる方、増山まで(親地連全国交流集会担当)ご連絡を。

○**次回例会**：1 /12(金),26 日(金),2/22(木)

【お知らせ】

★講演会「夢を追い続けた学校司書の四十年～図書館活用教育の可能性にいどむ～」/講演「学校図書館、この宝を子どもたちに」講師：五十嵐絹子(山形・鶴岡市朝陽第一小学校学校司書)/1 月 13 日(土)13:30～16:30／エポックなかはら 大会議室(JR 南武線武蔵中原駅直結)/100 円/生きた学校図書館をめざす会 船橋 044-969-3380

・上記講師による同じ講演会が 1/ 14(日)10:00～大田区産業プラザ pio にて有/500 円/児図研主催：申し込みは 03-3431-3478 FAX で

★うりこひめ主催「わらべうたであそぼう」/1月9日(火)10 時～12 時/せりがや会館2F和室/講師：奥本恵美子さん(ゆりがおか児童図書館で 18 年に亘りわらべ唄を伝えてこられた方)/0歳児～/茶菓代 200 円/問い：tel&fax 042-736-7306 岩田

★都立多摩図書館展示会「韓国の絵本がおもしろい」/～1/17/ハングルの絵本と日本語訳の絵本/副題「朝鮮半島の文化・民話・こどもたち」

★「白バラの祈り」を観る会/1月31日(水)19:00～公民館視聴覚室/主催：九条の町田 無料

あとがき 改正教育基本法成立 「個」から「公」重視へ /防衛「省」に昇格/「教育の憲法」転換点/戦後がまた変わった－教育と防衛/公立教員、病気休職 7,017 人、昨年度精神疾患増え過去最高/タウンミーティング首相、報酬 100 万円返納 「やらせ」自ら処分「抽選工作」も判明/税制大綱与党決定「1 兆円減税家計に薄く」/税制改正－理不尽な法人下げ/社保庁解体－これで本当に大丈夫か/教育基本法案が成立した後の朝日新聞の見出しである。3 000 人以上の人が連日国会で反対デモをしていたことや、ネットでの反対署名が何万人にも達していることなど一度も報道をしないで、決まった途端それがどういうものであるか堰を切ったように書きたてている。来年はいい年でありますよう。(M⁴)